

Q

14

卵巣刺激法による卵巣過剰刺激症候群 (OHSS)という副作用について教えてください

A

卵巣過剰刺激症候群 (ovarian hyperstimulation syndrome: OHSS) とは、卵巣が過剰に刺激されたために卵巣が腫れて肥大し、血管内の脱水と腹水・胸水が貯留することにより引き起こされるさまざまな症状です。重症化すると、卵巣捻転や腎不全、血栓症など危険な合併症が起こるため、早期発見・早期対応が大切です。

7章

生殖補助医療について

卵巣過剰刺激症候群の原因

体外受精における調節卵巣刺激では、ゴナドトロピン製剤 (FSH 製剤・hMG 製剤・hCG 製剤) などを用いて卵巣に複数の卵胞を発育させます。本人の卵巣機能が比較的良く、多くの卵胞が育つ場合や卵巣刺激が強い場合などに OHSS を発症することがあります。重篤な合併症を起こす可能性があるため、早めの対処が必要です。

一般不妊治療による排卵誘発でも発症しますが、より多くの卵子を得ることを目的とする調節卵巣刺激法の場合、その可能性はさらに高くなります。特に多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) や AMH が高値、OHSS の既往歴がある場合などは発症リスクが高いとされています。排卵誘発剤による OHSS の発症頻度は全体の 5% 程度です。

卵巣過剰刺激症候群の症状

卵巣が腫れて肥大し、腹水が貯まるため、初期には腹部膨満感、体重やウエストの増加がみられます。病状が進むと腹膜の刺激による腹痛、吐き気、嘔吐などを自覚するようになります。さらに、血液の水分が血管から漏れて、血管内は脱水となり血液が濃縮されるため、喉の渇きや尿量の減少などが起こります。重症化すると命に危険が及ぶ腎不全や血栓症、肺水腫などの合併症を発症します。

次のような症状が見られた場合は、すぐに医師に相談してください。

- お腹が張る
(スカートなどのウエストがきつくなった)
- 腹痛
- 吐気
- 急激な体重の増加
- 尿量の減少

